山岳信仰のメッカ
「大山」へのアーチ橋

登山橋（とざんばし）

登山橋は、黒坂警察署溝口幹部派出所から町道溝口金屋谷線を大山方向へ約 500 m進んだ大江川の深い谷間に架かる橋梁で、昭和 5 年頃の写真を見ると、木造のつり橋であったことがうかがえます。登山橋の呼称は大山登山のために設けられたことによるもので、現在でも溝口幹部派出所の前に大山正面登山道の道標が残されています。

施工は米子市の菊池組が請負い、昭和 8 年 8 月 25 日に着工、使用人員は延べ 7,147 人、工費 32,400 円を費やし、橋長 63.0 m、幅員 5.5 m の鉄筋コンクリート造・単連・無ヒンジアーチ橋が完成しました。竣工式は昭和 9 年 6 月 10 日に行われ、県知事をはじめ県の各関係者、地元町長、地元小学校生等が参列したそうです。

当時、この橋の長さ高さは全国有数で、関西一の大きなアーチ橋でした。しかし、関西に類例がなく非常に技術を要するもので、しかも大江川の深い谷間に架かる高い橋であったために非常に難工事でした。ちなみにこの橋を参考に、同型である若桜町の若桜橋は建設されたといわれています。

大山登山者は年々増加し、登山シーズンになるとこの付近にある伯耆溝口駅で下車する登山者が竣工時は 1 ヶ月間に約 1,600 人にのぼりました。おそらくこの多くの人達が、大山正面登山道の玄関口でもあるこの登山橋から大山を目指したと思われます。

現在は、溝口ＩＣのアクセス道ができて旧道となったことで交通量は激減しました。親柱と高欄が橙色になったこと、アスファルト舗装になったこと以外は当初の写真を見るかぎり姿はそのままです。

この橋が架けられた昭和初期、鉄筋コンクリート橋は既に実用化されていましたが、地方においてはまだまだ少数で、山合いに架けられた長大橋の多くは鋼製のトラスやアーチ橋が主流でした。現在では一般化されているこの形式のコンクリート橋の先駆例の一つです。

■位置図

登山橋下部

日野川水系の大江川が流れる深い谷間を渡る上路式開腹コンクリートアーチ橋。60 mを超えるスパンを途中に橋脚を設けず一跨ぎ。
鉄筋コンクリート造・単連・無ヒンジアーチ橋